

日本気象学会 2018 年度春季大会 出展・リクルートブース開設・協賛・協力企業・団体等一覧

今大会の開催にあたり、以下の企業・団体からご出展・リクルートブースご開設・ご協賛・ご協力を頂きました（2018年3月14日現在；50音順）。厚く御礼申し上げます。（*は会場内に併設されるブースにて展示を行う予定の企業・団体です。+は会場内に併設されるリクルートブースを設ける予定の企業・団体です。）

＜出展・リクルートブース開設・協賛＞

株式会社アイ・アール・システム*

株式会社朝倉書店

いであ株式会社+

英弘精機株式会社*+

オフィス気象キャスター株式会社+

株式会社気象工学研究所+

気象情報通信株式会社+

クレイ・ジャパン・インク

サイバネットシステム株式会社*

全日本空輸株式会社

ダイヤモンドエアサービス株式会社

株式会社日本エレクトロニック・インstrument

日本海洋事業株式会社+

日本気象株式会社+

一般財団法人日本気象協会*+

日本無線株式会社

株式会社ニューテック*

株式会社ハイク*

株式会社日立パワーソリューションズ*

株式会社プリード*

明星電気株式会社*

＜協力＞

一般社団法人つくば観光コンベンション協会

つくば市

日本気象学会 2018 年度春季大会

会期：2018年5月16日（水）～5月19日（土）

会場：つくば国際会議場

〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3 <https://www.epochal.or.jp/index.html>

大会実行委員会担当機関：気象研究所

大会委員長：隈 健一（気象研究所所長）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（つくば国際会議場小会議室301）

TEL 029-861-0601（大会期間中のみ有効）

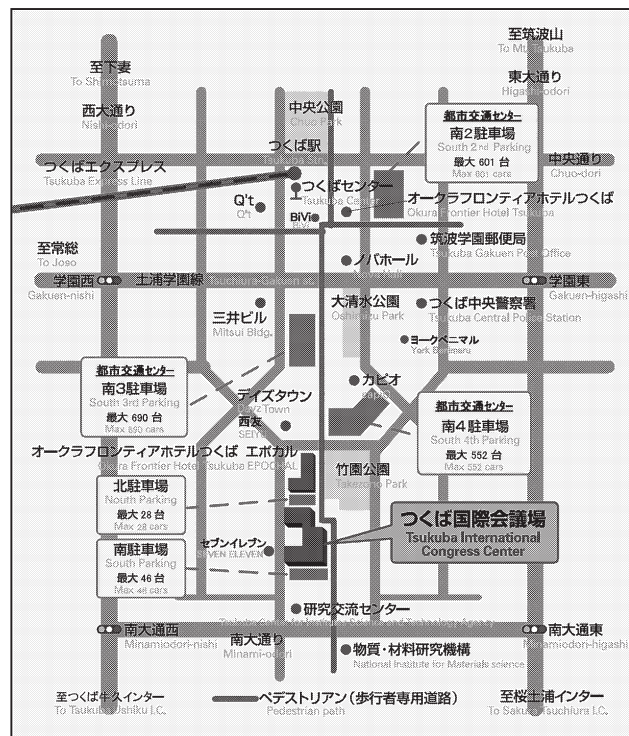
※大会参加者への伝言は、受付付近の掲示板に掲示します。

取り次ぎはいたしませんのでご承知おきます。

交通の案内：

- TXつくば駅・つくばセンターまで
 - ・つくばエクスプレス(TX)：
 - 「つくば」行きに乗車，終点「つくば駅」下車
 - ・JR常磐線：
 - 「土浦駅」西口3番バスのりば，「ひたち野うしく駅」東口バスのりばより，「筑波大学中央」または「つくばセンター」行きバスに乗車，「つくばセンター」下車（ともに所要時間約25分）
 - ・高速バス：
 - 東京駅八重洲口の高速バス2番のりばより「筑波大学」または「つくばセンター」行きに乗車，「つくばセンター」下車（所要時間約65分）。
 - 羽田空港第1，第2各ターミナル1階到着ロビー13番のりばより，「つくばセンター」行きに乗車，終点「つくばセンター」下車（所要時間約80分）。
- TXつくば駅・つくばセンターからつくば国際会議場まで
 - ペDESTリアンデッキ（歩行者専用道路）に昇り，直進（徒歩約10分）。

会場案内図（つくば国際会議場提供）



大会行事予定

A会場 : 大会議室101 (1F) 総会・記念講演・シンポジウム: 大ホール (1F)
 B会場 : 大会議室102 (1F) 受付 : エントランスホール (1F)
 C会場 : 中会議室201 (2F) 大会事務局 : 小会議室301 (3F)
 D会場 : 中会議室202 (2F) 懇親会 : 大会議室101・102 (1F)
 ポスター会場: 多目的ホール (1F)
 (企業展示会場・リクルートブース併設)

		A会場	B会場	C会場	D会場
5月 16日 (水)	09:30～ 11:45	中高緯度大気 (7, A101～A107)	降水システム I (7, B101～B107)	大気放射 (7, C101～C107)	大気力学 (7, D101～D107)
	11:45～ 12:45	ポスター・セッション (29, P101～P129)			
	13:45～ 17:30	気候システム I (11, A151～A161)	専門分科会 「多発する集中豪雨と 線状降水帯ー特に 2017年の豪雨事例を 中心としてー」 (14, B151～B164)	熱帯大気 I (13, C151～C163)	大気境界層 (11, D151～D161)
5月 17日 (木)	09:15～ 11:30	気候システム II (6, A201～A206)	降水システム II (7, B201～B207)	熱帯大気 II (7, C201～C207)	気象予報 I (7, D201～D207)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (29, P201～P229)			
	13:30～ 15:30	総会			
	15:40～ 17:50	学会賞, 藤原賞, 岸保・立平賞受賞記念講演			
	18:15～ 20:15	懇親会			
5月 18日 (金)	09:15～ 12:00	気候システム III (9, A301～A309)	降水システム III (8, B301～B308)	熱帯大気 III (9, C301～C309)	気象予報 II (8, D301～D308)
	12:00～ 13:00	ポスター・セッション (28, P301～P328)			
	14:00～ 17:30	シンポジウム「防災・減災のための観測・短時間予測技術の未来」			
5月 19日 (土)	09:15～ 11:30	気候システム IV (3, A401～A403)	降水システム IV (4, B401～B404)	観測手法 I (7, C401～C407)	気象予報 III (7, D401～D407)
		環境気象 (4, A404～A407)			
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (15, P401～P415) ジュニアセッション			
	13:30～ 17:15	公開気象講演会 「台風の強度～台風災 害の軽減に向けた航空 機観測～」	物質循環システム (9, B451～B459)	観測手法 II (9, C451～C459)	中層大気 (12, D451～D462)

発表件数: 294件 (専門分科会14, 口頭発表179, ポスター101)

当大会予稿集に掲載された著作物については、以下の規程「日本気象学会の刊行物に掲載された著作物の利用について (http://www.metsoc.jp/teikan/MSJ_kitei_copyrightpolicy.pdf)」に準じます。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1 気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (E-mail: kouenkikaku2018s@mri-jma.go.jp) まで。

講演の方法

一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演 1 件あたりの持ち時間は 17 分 (講演 13 分・質疑 4 分) です。
- ・ 専門分科会の発表時間については世話人からの指示に従ってください。
- ・ 講演には PC プロジェクターを使用できます。
- ・ 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
 - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクター、VGA ケーブルおよび HDMI-VGA 変換アダプタを準備します。VGA (ミニ D-sub15 ピン)、あるいは HDMI (フルサイズ) コネクタを装備した PC が使用できます。
 - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をとることがあります。携帯用メディアによるバックアップフ

イルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦 205.5 cm×横 85.5 cm 程度となっています (ただし、足元からパネルが立ち上がる点に注意)。
- ・ ポスターの掲示には画鋏を使用して下さい。画鋏は会場に用意します。
- ・ ポスターの掲示可能時間は以下の通りです。会場の都合上時間厳守をお願いします。
 - ✓ 第 1 日の発表者は 5 月 16 日 09:00～17:00
 - ✓ 第 2 日の発表者は 5 月 17 日 09:00～17:00
 - ✓ 第 3 日の発表者は 5 月 18 日 09:00～17:00
 - ✓ 第 4 日の発表者は 5 月 19 日 09:00～17:00
- ・ ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。

保育施設の紹介について

大会期間中の会場近隣の保育施設として、次の施設を紹介します。

1. キッズハウスつくば

〒305-0051 茨城県つくば市二の宮1丁目24-8
 パルシャスつくば1F 101号
 Tel: 0120-38-8373
<http://www.kids-house.jp/>

つくばセンターバスターミナル4番乗り場より関東鉄道バス「学園南循環 (右回り, 左回りどちらでもよい)」に乗車し (乗車時間5分)、「二の宮一丁目」下車、バス進行方向へ徒歩約1分です。途中バス停の「国際会議場 (学会会場)」からは2つ目のバス停です。学会会場から徒歩の場合は約10分 (800m) となります。バスの本数が少ないので、確認して利用されることをお勧めします。

http://kantetsu.co.jp/bus/timetable_tsukuba.html

2. AiAi kids (あいあいキッズ)

〒305-0817 茨城県つくば市研究学園4-4-11
 ハニユウ薬局研究学園店2階
 Tel: 029-869-9705
<http://ai-ai-kids.com/index.html>
 TX研究学園駅より徒歩10分

ただし、左記は情報提供のみであり、保育施設への申し込みは利用者個人で行って下さい。また、補助は保育支援ガイドライン (http://jinzai.metsoc.jp/files/childcare_support_guideline.pdf) に則りますので、補助申し込み以降の手続きは学会事務局にお問い合わせください。

大会実行委員会からのお知らせ

- ・ 大会実行委員会の窓口は事務局長・直江 (hnaoe@mri-jma.go.jp) です。他の実行委員に個別に照会するのは極力、避けてください。
- ・ 前納受付者には大会参加票、ネームホルダー、大会ハンドブックの3点を事前に送付いたします。前納受付者は、懇親会追納などのご要望や、同封物の不備がない限り、大会当日、会場の受付にお立ち寄り頂く必要はありません。直

接、講演会場にお越しください。なお、大会参加中は、受付がお済みであることを明示するため、領収証を切り離れた大会参加票をネームホルダーに入れてご呈示ください。

- ・ 大会実行委員会が発行する大会参加費および懇親会費の各領収書は、税法上認められた実務上の証拠書類となる正式なものです。原則、これらを手書きの領収書に改めることは認めませんので、ご了承ください。

シンポジウム「防災・減災のための観測・短時間予測技術の未来」

日時：2018年5月18日（金）（大会第3日）14:00～17:30

会場：つくば国際会議場 大ホール（1F）

司会：斉藤 和雄（気象庁気象研究所）

※シンポジウムの聴講は無料です。一般の方も参加できます。

趣旨

集中豪雨や台風などによる災害は毎年のように発生している。地球温暖化と共に、現象の頻度や強度、発生場所の変化（北上）なども懸念されており、これら自然現象によって生じる災害への対策は喫緊の課題である。一方、近年の観測技術、予測技術、ICT技術の発展は目覚ましいものがあり、気象関連災害に対する防災・減災のための鍵となる技術として期待される。

国土交通省は平成27年1月に『新たなステージに対応した防災・減災のあり方』をとりまとめた。これを受けて、交通政策審議会気象分科会は、同年7月に『『新たなステージ』に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方』を気象庁への提言としてとりまとめ、大きな気象災害をもたらす要因となっている「積乱雲」、「集中豪雨」、「台風」について、それぞれに関する観測・予測技術の現状と課題を確認し、最適な観測手段と技術向上に向けて取り組むべき方向性を示した。

本シンポジウムでは、線状降水帯などに代表される集中豪雨や台風に伴う大雨、それに伴う災害を主な対象とし、最も大きな被害をもたらす土砂災害の様相、10年程度先を見通したときに必要となる観測・予測技術及び災害情報の提供に関する技術について、専門家による講演と参加者全員による総合討論を通して、現状とその将来の方向性について議論を深めたい。

プログラム

- 「豪雨に関する防災情報を支える観測・予測技術の現状」
小泉 耕（気象庁気象研究所）
- 「防災のための次世代の観測技術」
鈴木 修（気象庁気象研究所）
- 「次世代スーパーコンピュータとビッグデータが拓く未来の気象予測」
三好 建正（理化学研究所）
- 「水災害発生過程と予測の必要性」
小池 俊雄（土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター）
- 「災害情報の共有と利活用」
白田 裕一郎（防災科学技術研究所 総合防災情報センター）

総合討論

総会

日時：大会第2日（5月17日）13:30～15:30

場所：大ホール（1F）

議事次第

- 開会
- 議長選出
- 理事長挨拶
- 2018年度日本気象学会賞授与
- 2018年度藤原賞授与
- 2018年度岸保・立平賞授与
- 2017年気象集誌論文賞及びSOLA論文賞授与報告
- 議事
- 報告
 - 2017年度事業報告
 - 2017年度決算報告
 - 2017年度監査報告
 - 公益法人日本気象学会細則の一部改正について
 - 公益法人日本気象学会定款の一部改正について
 - 第39期名誉会員の推薦について
 - 第40期役員の選任について
- 報告
 - 2018年度事業計画
 - 2018年度収支予算
 - その他

専門分科会の概要紹介

多発する集中豪雨と線状降水帯一特に2017年の豪雨事例を中心として一

日時：2017年5月16日（水）（大会第1日）13:45～17:30

場所：B会場

趣旨：2017年7月5日～6日に福岡県朝倉市や大分県日田市などの九州北部地方で集中豪雨による甚大な被害が発生し、気象庁は「平成29年7月九州北部豪雨」と命

名した。九州北部豪雨発生の前後にも島根県・新潟県・秋田県など各地で豪雨が頻発した。これらの豪雨発生の主要因の一つとして所謂「線状降水帯」の存在が指摘されているが、その発生環境場と形成機構、降水量の予測可能性、災害評価に資する豪雨の定量的表現法など依然として未解明の課題が山積している。本分科会では、特に2017年梅雨末期の豪雨事例を中心に、観測研究から、データ解析、データ同化、数値シミュレーションに至る様々な手法に基づいた、線状降水帯関連の気象学的研究はもとより減災・防災関連の調査研究の話題提供も期待

したい。また、今後も頻発が予想される豪雨災害の対策に資するための研究の方向性を会員と共に議論する。次代を担う大学院生など若手の発表も大いに歓迎する。

世話人: 竹見哲也(京都大学), 津口裕茂(気象研究所), 清野直子(気象研究所), 加藤亮平(防災科学技術研究所), 清水慎吾(防災科学技術研究所), 下瀬健一(防災科学技術研究所), 川野哲也(九州大学), 川村隆一(九州大学)

公開気象講演会のお知らせ

日時: 2018年5月19日(土) (大会第4日) 13:30~17:15
場所: つくば国際会議場 大会議場101 (大会A会場)
テーマ: 台風の強度~台風災害の軽減に向けた航空機観測~
主催: 公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会
後援: 一般社団法人日本気象予報士会
趣旨: 日本気象学会2018年度春季大会の開催に合わせて、一般市民の方々に気象に関する最新の研究成果や関心の深い事柄について解説することを目的として公開気象講演会を開催します。今回は「台風の強度」について航空機を用いた取り組みをテーマとして取り上げます。台風は毎年のように大きな災害をもたらし、日本の風水害の大きな原因となっています。さらに地球温暖化に伴い台風がますます強くなることが予想され、日本における台風のリスクは増大しています。それにもかかわらず、台風の強度の推定値には誤差が大きく、また強度予測には十分な改善がみられません。これらの問題を解決し、将来、台風による災害のない

安全な社会を作っていくためには、航空機を用いた台風の直接観測をおいほかにはありません。今回の公開講演会では、台風の強度をどのように推定し、予報するのかについて最先端の技術を詳しくかつ分かりやすく説明し、航空機を用いて台風を直接観測することで上記の問題を解決していこうとする最近の取り組みを紹介し、航空機で超大型台風の眼に入ったときの、「天空の城ラピュタ」を彷彿とさせる壮大な眼の中の風景もお楽しみください。

テーマ及び講演者

- 趣旨説明 坪木和久(名大)
1. 台風の強度を測るには 中澤哲夫(気象研)
 2. 台風の予報はいま? 伊藤耕介(琉球大)
 3. 台風の観測機器 清水健作(明星電気)
 4. 台風の航空機観測 山田広幸(琉球大)

問い合わせ先: 小田真祐子(教育と普及委員会)
 TEL: 029-852-9162
 E-mail: msj-ed_2018@metsoj.jp

ジュニアセッションのお知らせ

※下記の趣旨のため、多くの学会会員の皆様にご参加いただき、質疑やコメントをくださいますよう、宜しくお願いいたします。
 ※ジュニアセッション発表者・見学者の参加は無料です。

日時: 2018年5月19日(土) (大会第4日) 11:30~12:30
場所: つくば国際会議場 多目的ホール(大会ポスター会場)
主催: 公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会・講演企画委員会
趣旨: 大気や気象に対する若い人たちの興味や探究心が高まることで、より豊かな社会の招来に繋がることを期待し、日本気象学会2018年度春季大会の開催に合わせて、高校・中学生世代を対象に「ジュニアセッション」を開催します。生徒たちが自ら行った気象や大気に関する調査・研究の成果を、専門家の前で発表体験し、意見交換することによって調査・研究を深めてもらうことを主な目的としています。多くの学会会員の皆様にご参加いただき、質疑やコメントをくださいますよう、宜しくお願いいたします。
発表・見学の資格: 高等学校、高等専門学校生(1~3学年)の生徒(新卒者含む)個人またはグループ。中学生の発表も可。発表者がいない学校の生徒、教諭、引率者も見学できます。

発表形態・発表内容: ポスターセッション形式。内容は気象・気候や大気についての生徒による調査・研究成果。詳細は日本気象学会ホームページ(<http://www.metsoc.jp/?p=9528>)をご覧ください。

参加特典:

1. 発表者の全員に対し、「発表認定証」を発行します。
2. 日本気象学会ホームページに発表者や発表要旨などを掲載し、顕彰します。
3. 発表者は、専門家による質疑やコメントを通じて、研究の要領やヒントを得たり、また参加者間の交流を深めたりすることができます。
4. 発表者・見学者・引率者は春季大会における各種セッション、シンポジウム、講演等を無料聴講できます。

問い合わせ先: 公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会
 E-mail: msj-ed_2018@metsoj.jp(ジュニアセッション担当)
 Tel: 03-3216-4403 Fax: 03-3216-4401 (学会事務局)

研究会のお知らせ

大会期間中とその前後に以下の研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

第 49 回メソ気象研究会

日時：2018年5月15日(火) (大会前日) 13:15~15:45

場所：気象庁講堂(東京都千代田区大手町1-3-4)

コンパネーター：櫻井南海子, 下瀬健一, 加藤亮平(防災科研)

テーマ：「雷研究の現状と今後の展望」

内容：2017年8月19日に首都圏で発生した雷雨による花火大会の事故など、雷による事故は後を絶ちません。気象庁の雷監視システム(LIDEN)による雷観測データが、2017年1月より公開されるようになりました。また、国交省の偏波レーダーデータ(XRAIN)も2015年10月よりDIASから学術向けに公開され、雷研究に有用なデータの取得が飛躍的に容易になりました。データ利用が可能になった今、雷研究の現状と今後の課題を整理する必要があります。そこで、今回のメソ気象研究会では、雷研究を行っている方に講演を依頼し、話題提供をしていただくことにしました。雷そのものを観測する技術開発をされてきた吉田智さん、雷を発生させる雷雲を観測する偏波レーダーの解析を行っている額瀨大晴さん、雷雲内の雷をモデルで再現する技術開発をされている加藤雅也さん、そして現業(気象庁)の雷情報について加藤輝之さんにお話しして頂きます。この研究会で、現在、国内では雷についてどこまで分かっている、何が問題なのか、海外の雷研究を参考にしつつ、将来どこへ目指すべきかを整理するきっかけになればと思っています。多くの方々のご参加と活発な議論をお願いいたします。

プログラム：

13:15-13:25 開会挨拶・趣旨説明

13:25-13:50「気象庁での雷関係プロダクト-LIDEN・雷ナウキャスト・発雷確率ガイダンスの概要について」
加藤輝之(気象庁)

13:50-14:15「Xバンド偏波レーダーを用いた夏季雷雲内部の降水粒子分布観測」 額瀨大晴(情報通信研究機構)

14:15-14:40「雷3次元標定装置の発展とその応用」 吉田智(気象研)

14:40-15:05「雲解像モデルCReSSによる雷シミュレーション」 加藤雅也(名古屋大)

15:05-15:30「海外における雷研究の動向と防災科研における雷研究の取り組み」 櫻井南海子(防災科研)

15:30-15:45 総合討論

※発表タイトルは、予告なく変更する場合があります。

世話人：坪木和久(名大宇地研), 加藤輝之(気象庁), 小倉義光(東大気海洋研)

連絡先：下瀬健一(防災科研)

E-mail: kshimose@bosai.go.jp

注意事項：受付にて名札をお受け取り下さい(トイレや自販機等を利用する際に必要となります)。講堂での飲食はご遠慮ください。

第 11 回気象庁数値モデル研究会

日時：2018年5月15日(火) (大会前日) 16:00~18:30

場所：気象庁講堂(東京都千代田区大手町1-3-4)

テーマ：「台風・集中豪雨の予測精度向上に向けた数値予報技術開発の方向性」

内容：数値予報は、日々の天気予報や防災気象情報の発表に必要な不可欠な基盤技術となっており、近年、集中豪雨や台風等による被害の相次ぐ発生や、IoT等の技術の進展による気象データの利用拡大等により、その予測精度向上への期待は益々高まっています。こうした状況のもと、気象庁では、数値予報モデルの飛躍的な精度向上を目指す取り組みを進めています。その一環として、大学等研究機関が持つ最新の研究成果や知見のより積極的な活用を図るため、大学等研究機関の専門家による「数値予報モデル開発懇談会」(会長:新野 宏 東京大学大気海洋研究所客員教授)を平成29年から開催しています。

今回の研究会では、気象庁側から現在検討を進めている今後10年程度を展望した数値予報モデル開発の考え方を紹介するとともに、研究コミュニティ側で実施している先端的な研究の現状を共有頂くことで、台風・集中豪雨予測を中心に今後の現業数値予報モデル開発及びこれに関連する研究のあるべき方向性について意見交換を行いたいと考えております。多くの方々のご参加と活発なご議論をお願いいたします。

プログラム：

16:00-16:10 開会挨拶・趣旨説明

16:10-16:40「台風・集中豪雨予測に関する数値予報モデルの課題と技術開発の方向性(仮題)」

16:40-17:10「台風の予測精度向上に資する先端的研究の現状(仮題)」

17:10-17:40「集中豪雨の予測精度向上に資する先端的研究の現状(仮題)」

17:40-18:30 総合討論

※発表タイトル及び講演者については調整中です。決まり次第、以下のURLに掲載する予定です。

<http://pfi.kishou.go.jp/>

連絡先：長谷川昌樹(気象庁)

E-mail: m-hasegawa@met.kishou.go.jp

注意事項：受付にて名札をお受け取り下さい(トイレや自販機等を利用する際に必要となります)。講堂での飲食はご遠慮ください。

第 3 回気象学史研究会

主催：気象学史研究連絡会

日時：2018年5月16日(水) (大会第1日) 18:00~20:00

場所：中会議室201(C会場)

テーマ：「日本での初期の数値天気予報」

内容：数値天気予報は、第二次世界大戦直後のアメリカ合衆国で研究開発が進展し、日本では1959年に気象庁の現業にとり入れられたことはよく知られています。しかし、日本で数値予報に関するどのような研究開発が進められてきたかはよく知られていないといえないようです。そこで本会合では、現業開始以前の台風に関する数値予報の研究についての論考をまとめられた科学史家の有賀暢迪氏、気象

庁で現業初期から参画された新田尚氏、1970-80年代に現業に参画されその前後にわたって数値予報に関心をもってこられた二宮洗三氏に、それぞれ論じていただくことにしました。なお、新田氏の報告は書面での発表を紹介する形で行います。

本会合は気象学史研究に関心を持つ、より多くの方の間の情報・意見交換をうながすため、学会員以外の方にも広く参加を呼びかけて開催いたします。

プログラム：

- 「日本での初期の数値天気予報」（書面参加）
新田 尚（元 気象庁）
- 「日本における初期の数値予報の発展とその問題点」
二宮 洗三（元 気象庁）
- 「電子計算機以前 — 日本における数値予報研究の始まり」
有賀 暢迪（国立科学博物館）
- コンピーナー・司会：増田耕一（首都大学東京）

連絡先：山本 哲（気象研究所）

TEL 029-853-8615 FAX 029-855-7240

メールでの問い合わせは気象学史研究連絡会ウェブサイトの問い合わせフォームをご利用ください。
<https://sites.google.com/site/meteorolhistoryjp/>

極域・寒冷域研究連絡会

日時：2018年5月16日（水）（大会第1日）18:00～20:00

場所：中会議室 202（D会場）

テーマ：「北極域の雲微物理過程の追究に向けて」

趣旨：北極域の上空では、水雲、氷雲、あるいはその両者の混在した雲（混相雲）が、年間を通して頻繁に発生し、北極域の気候や天候に大きな影響を及ぼします。しかしながら、現状の雲解像モデルの中では、北極域の雲微物理過程を必ずしもうまく表現しきれておらず、その大きな理由の1つとして、雲微物理に関する観測事実（水雲／氷雲の判別、雲粒の数濃度や粒径分布などの情報）が非常に不足していることが挙げられます。そこで、今回の研究会では、ユニークな雲粒子ゾンデや人工衛星などを用いた研究に取り組んでいる研究者を招き、雲微物理に関する観測技術とその応用例について紹介していただきます。さらに、これらの観測技術を北極域で活用する上での可能性や課題などについても議論したいと思います。また、極域気候モデルの現状や将来の展望についても、専門家を招いて解説

していただきます。学会参加者からの話題提供も期待しておりますので、ご希望の方は下記連絡担当者またはお近くの当研究連絡会の世話人にお声掛けください。

プログラム：

1. 趣旨説明
2. 「明星電気雲粒子（CPS）ゾンデの紹介」 杉立卓治（明星電気）
3. 「赤道域における特殊ゾンデ観測の紹介と北極域研究への応用」 稲飯洋一（東北大学）
4. 「アクティブセンサ搭載衛星観測による北極域雲の物理特性研究」 岡本 創（九州大学）
5. 「極域気候モデルNHM-SMAPの現状と将来展望」 庭野匡思（気象研究所）

問い合わせ先：當房 豊（国立極地研究所）

E-mail: tobo.yutaka@nipr.ac.jp

雲・降水研究会

日時：2018年5月17日（木）（大会第2日）12:30～13:30

場所：会議室 401

テーマ：「降水粒子観測」

趣旨：雲・降水粒子の粒径・形状・密度等の物理特性は、大気の水・熱循環に深く関与するとともに、リモートセンシングによる地球環境監視のほか、防災的観点からも重要な要素です。その性状や動態を捉えるために、直接観測・遠隔観測を含め様々な手法で観測が行われています。

本研究会では雲・降水粒子の直接観測に焦点をあて、長年ビデオゾンデ観測をされてきた鈴木賢士氏（山口大）と、降雪粒子の地上観測をされてきた本吉弘岐氏（防災科研）からお話しいただくとともに、観測で捉えられた粒子の物理特性やその応用、今後の連携や研究ビジョンに関する視点も含め議論します。

プログラム：

1. 趣旨説明
2. 「地上降雪粒子観測から得られる情報 — 降雪と積雪の橋渡し —」 本吉弘岐（防災科研）
3. 「雲内降水粒子直接観測のこれまでとこれから」 鈴木賢士（山口大）

連絡先：橋本明弘（気象研究所）

E-mail: ahashimo@mri-jma.go.jp

リクルートブースの設置について

ポスター発表が行われる場所に隣接して、会場内にリクルートブースを設ける予定です。これは、民間企業から適職に出会うための機会を提供して頂き、気象学会に所属する大学院生や有期雇用研究者との間での情報交換を通じて、彼らのキャリア形成をサポートすることが目的です。参加予約手続きは不要です。ブースでは、ポスター発表時間および昼休みをコアタイムとして、企業担当者が対応します。リクルートブースに出展予定の企業は以下の通りです（2018年3月14日現在）。

*の企業は5月16日（水）と17日（木）、それ以外の企業は

18日（金）と19日（土）の開設を予定しています。

- いであ株式会社*
- 英弘精機株式会社*
- オフィス気象キャスター株式会社
- 株式会社気象工学研究所*
- 気象情報通信株式会社
- 日本海洋事業株式会社*
- 日本気象株式会社*
- 一般財団法人日本気象協会*
- （五十音順）

2018 年度秋季大会の予告

2018 年度秋季大会は、2018 年 10 月 29 日（月）～11 月 1 日（木）に仙台国際センターで開催される予定です。大会告示は「天気」5 月号に掲載予定です。なお、秋季大会の講演申し込み締め切りは 2018 年 7 月頃となる予定です。

大会第1日 [5月16日(水)] 09:30~11:45 一般口頭発表

A 会場

中高緯度大気

座長 : 佐藤 友徳 (北大院地球環境)

- | | | |
|------|-----------------|--|
| A101 | 岩崎 杉紀 (防大地球) | 可視では判別できないほど薄い雲が他の雲に与える影響 |
| A102 | 相澤 拓郎 (東大大気海洋) | MRI-ESM2 を用いた CMIP6 実験に見られる北極域の数十年規模変動 |
| A103 | 小寺 邦彦 (名大・宇地研) | 2017 年末の北米寒波と成層圏惑星波の下方伝播 |
| A104 | 佐藤 友徳 (北大院地球環境) | ユーラシア大陸北部における夏季気温偏差の予測可能性に対する陸面の寄与 |
| A105 | 佐藤 令於奈 (福岡大院理) | 冬季中緯度における雲量の季節内変動特性 |
| A106 | 平田 英隆 (名大・宇地研) | 暖流からの潜熱/顕熱供給に対する日本列島に沿って北進する爆弾低気圧の応答 |
| A107 | 佐藤 尚毅 (学芸大) | MJO の位相や振幅が関東地方の降水や降雪に与える影響 |

大会第1日 [5月16日(水)] 09:30~11:45 一般口頭発表

B 会場

降水システム I

座長 : 横田 祥 (気象研)

- | | | |
|------|----------------|---|
| B101 | 荒木 健太郎 (気象研) | 那須における短時間大雪の統計解析 |
| B102 | 渡邊 俊一 (JMBSC) | DSJRA-55 を用いた冬季日本海上の渦状擾乱の長期変動の解析 |
| B103 | 篠田 裕太 (九大・理) | 長白山系による JPCZ 発生環境場の形成と日本海側の降水分布 |
| B104 | 川島 正行 (北大低温研) | 日本海を通過する寒冷前線の多重構造とその形成メカニズム |
| B105 | 横田 祥 (気象研) | 局地的降水の発生に適した大気場のアンサンブル実験に基づく解析 |
| B106 | 関 庚夕 (名大 ISEE) | 夏季の近畿地方に発生する線状降水システムの形成メカニズム |
| B107 | 今村 淳志 (筑波大学) | 集中豪雨をもたらす線状降水帯の統計解析: その2 鉛直シアベクトルと線状降水帯の走向の関係 |

大会第1日 [5月16日(水)] 09:30~11:45 一般口頭発表

C 会場

大気放射

座長 : 大河原 望 (気象庁環境気象)

- | | | |
|------|-----------------|--|
| C101 | 大河原 望 (気象庁環境気象) | 水蒸気が多い状況における赤外放射計の特性 |
| C102 | 桃井 裕広 (東理大) | 天空輝度を用いた水蒸気波長のセルフキャリブレーション法の開発 |
| C103 | 内山 明博 (環境研) | 改造スカイラジオメーターによる月を光源としたエアロゾル光学的厚さの推定 (2) |
| C104 | 内山 明博 (環境研) | スカイラジオメーター (POM02) の特性 (Part 2) (衛星推定エアロゾルプロダクト検証に向けて) |
| C105 | 関口 美保 (海洋大) | ひまわり 8号による衛星解析データを用いたエアロゾルによる雲への影響についての統計的解析 |
| C106 | 藤川 雅大 (九大総理工) | MFMSPLを用いた雲相識別手法の有効性の検証 |
| C107 | 高橋 芳幸 (神戸大理) | 惑星大気放射伝達モデルの構築: 金星大気の計算 |

大会第1日 [5月16日(水)] 09:30~11:45 一般口頭発表

D 会場

大気力学

座長 : 石渡 正樹 (北大院理)

- | | | |
|------|------------------|---|
| D101 | 大貫 陽平 (九大応力研) | 地球流体力学における研究ツールとしての Wigner 変換 |
| D102 | 野田 彰 (MRI) | Eliassen-Palm フラックスと群速度の関係における β 効果 |
| D103 | 板野 稔久 (防衛大・地球海洋) | 軸流周りのシアで生成する擾乱の最適励起 |
| D104 | 中島 健介 (九大・理) | 津波起源 Lamb 波の振幅の理論的見積もり |
| D105 | 吉崎 正憲 (立正大地球環境) | 球座標系における浅水波 (ラプラス潮汐方程式) の厳密解 (1) |
| D106 | 山野 未央 (名大 ISEE) | パイロットレポート資料に基づく日本上空での乱気流の統計的特徴 |
| D107 | 石渡 正樹 (北大院理) | 大気大循環モデルを用いた地球気候の太陽定数依存性に関する数値的研究 |

大会第1日 [5月16日(水)] 13:45~17:30 一般口頭発表

A 会場

気候システム I

座長 : 吉森 正和 (北大地球環境)

- | | | |
|------|-------------------|---|
| A151 | 吉森 正和 (北大地球環境) | 中高緯度の温暖化が熱帯の降雨分布に与える影響 2 |
| A152 | 長谷川 聡 (土研 ICHARM) | 2°C及び 1.5°C昇温した将来の気象学的渇水の変化 |
| A153 | 戸田 賢希 (東大大気海洋研) | 20 世紀に観測された日本周辺海域の強い昇温トレンド |
| A154 | 横山 千恵 (東大大気海洋研) | 日本周辺における初夏の降水特性の将来変化 : CMIP5 モデル大規模場による推定 |
| A155 | 関根 祐大 (東大大気海洋研) | 十年規模気候内部変動に伴う全休平均気温の変動メカニズム |

座長 : 土井 威志 (JAMSTEC)

- | | | |
|------|-----------------------|--|
| A156 | 土井 威志 (JAMSTEC) | 100 アンサンブルメンバーによる季節予測実験 |
| A157 | 堀 正岳 (北極環境変動総合研究センター) | d4pdf を用いた冬季北半球の寒波発生頻度と東アジア冬季モンスーンの変動幅の長期傾向についての研究 |
| A158 | 原田 やよい (気象研) | 北半球夏季季節内振動と大気大循環変動との関係 |
| A159 | 黒田 友二 (気象研) | 太陽活動の北大西洋振動への影響 |
| A160 | 小林 ちあき (気象研) | 結合同化システムの短期再解析実験における降水量-SST 関係 |
| A161 | 楠 昌司 (気象研) | 積算偏差降水量による雨期の判定 |

大会第1日 [5月16日(水)] 13:45~17:30 専門分科会

B 会場

多発する集中豪雨と線状降水帯—特に2017年の豪雨事例を中心として—

趣旨説明 (5分) 竹見哲也 (京大防災研)

座長: 川村 隆一 (九大院理)

- | | | |
|------|---------------|---|
| B151 | 津口 裕茂 (気象研) | 「平成 29 年 7 月九州北部豪雨」の発生要因について
—線状降水帯の形成・維持メカニズム— |
| B152 | 川野 哲也 (九大院理) | 平成 29 年 7 月九州北部豪雨をもたらした線状降水帯の数値シミュレーション |
| B153 | 竹見 哲也 (京大防災研) | 2017 年九州北部豪雨をもたらした降水系の停滞性・持続性 |
| B154 | 加藤 亮平 (防災科研) | 雲解像数値モデルを用いた平成 29 年 7 月九州北部豪雨を引き起こした線状降水帯に伴う降水量の予測可能性 |

座長: 清水 慎吾 (防災科研)

- | | | |
|-------|---------------------|---|
| *B155 | 佐山 敬洋 (京大防災研) | 平成 29 年 7 月九州北部豪雨を対象とした中小河川の降雨流出氾濫解析 |
| *B156 | P. C. Shakti (NIED) | Rainfall runoff simulation of small ungauged mountainous river basins |
| *B157 | 和田 幸一郎 (秋田地方気象台) | 地域防災支援における気象台の取組み |
| *B158 | 藤田 匡 (数値予報課) | 現業数値予報システムによる豪雨予測の現状と課題 |

休憩 (5分)

座長: 津口 裕茂 (気象研)

- | | | |
|-------|--------------|---------------------------------------|
| B159 | 伊藤 純至 (気象研) | 線状降水帯の高解像度理想実験 |
| B160 | 若月 泰孝 (茨城大理) | 梅雨前線帯の降水システムの理想化数値実験に関する研究 |
| B161 | 飯塚 聡 (防災科研) | 海面水温が豪雨に及ぼす影響 平成 25 年 8 月秋田・岩手豪雨を例に |
| *B162 | 永井 智広 (気象研) | 局地的豪雨の降水量予測精度向上のためのライダーを用いた水蒸気鉛直分布の観測 |
| B163 | 吉田 智 (気象研) | 水蒸気ラマンライダー観測による水蒸気量の同化 |
| B164 | 小司 楨教 (気象研) | 大気診断のための高頻度データ同化実験 |

座長: 竹見 哲也 (京大防災研)

総合討論

* 印は招待講演 (18分)、その他講演は12分

大会第1日 [5月16日(水)] 13:45~17:30 一般口頭発表

C 会場

熱帯大気 I

座長 : 日置 智仁 (名大宇地研)

C151	北本 朝展 (NII)	「デジタル台風」気象衛星画像データセットと機械学習
C152	坪木 和久 (名大宇地研)	T-PARCII プロジェクトにおける台風観測のためのドロップゾンデ開発とそれをを用いた台風の航空機観測
C153	山田 広幸 (琉球大理)	航空機観測で捉えた 2017 年台風第 21 号の二重暖気核構造
C154	辻野 智紀 (名大宇地研)	非静力学モデルで再現された台風 Lan (2017) における暖気核の時間変化
C155	石原 正仁 (気象研)	遠隔サイクロンによるスリランカの水害発生時の総観場
C156	小山 亮 (気象研)	Noru(1705)の強化及び構造変化に影響を与えた環境場要因
C157	嶋田 宇大 (気象研)	強い鉛直シア一下で起きた 2015 年台風第 6 号の再発達と眼の壁雲形成
C158	ナヤク スリダラ (DPRI)	Dynamic Downscaling of typhoons affecting Northern Japan
C159	藤原 圭太 (九大院・理)	日本の南海上で発達する秋台風に対する黒潮の遠隔作用
C160	筆保 弘徳 (横浜国大)	台風発生に影響を及ぼす対流圏上層寒冷渦の統計解析
C161	日置 智仁 (名大宇地研)	雲解像モデルを用いた台風の最大風速半径の決定要因についての研究
C162	伊藤 耕介 (琉大)	JNoVA を用いた 2017 年台風 21 号航空機観測の同化 (序報)
C163	山口 宗彦 (気象研)	T-PARCII ドロップゾンデと気象庁全球予測システムを用いた観測システム実験と台風強度を対象とした感度解析ガイダンスの開発

大会第1日 [5月16日(水)] 13:45~17:30 一般口頭発表

D 会場

大気境界層

座長：北村 裕二（気象研）

- | | | |
|------|----------------|---|
| D151 | 村橋 究理基（北大理） | 火星高解像度 LES を用いた地表面ダストフラックスの見積もり |
| D152 | 佐藤 陽祐（名大工） | 洋上の浅い積雲に対する LES の解像度依存性 |
| D153 | 吉田 敏哉（京大院理） | 建物高さのばらつきを考慮した都市キャノピーによる乱流特性への影響 |
| D154 | 北村 裕二（気象研） | MYNN モデルの逆勾配項再考 |
| D155 | 吉崎 正憲（立正大地球環境） | 富士山周辺に見られる山岳波の数値実験
—1966年3月5日のBOAC機墜落事故時の大気環境— |

座長：菅原 広史（防大）

- | | | |
|------|--------------------------|--|
| D156 | 高咲 良規（立正大） | 1991年台風19号（T9119）に伴う青森県西部に発生したおろし風の成因 |
| D157 | 中村 祐輔（立正大・院） | GPSゾンデにより観測された長野市裾花川谷ロケットの立体構造 |
| D158 | 高橋 一之（都都市整備局／
気象予報士会） | 高密度地上観測データで見られた短時間強雨発生前における気象場の変化
—2015年7月24日の世田谷区を中心とした強雨事例— |
| D159 | 菅原 広史（防大） | 地上気温測定に及ぼす露場広さの影響 |
| D160 | 山本 雄平（京大院理） | 日本の大都市域における地表面温度の日変化特性 |
| D161 | 清本 翔太（東工大） | 高解像度全球人工排熱量の将来推定 |

大会第2日 [5月17日(木)] 09:15~11:30 一般口頭発表

A 会場

気候システムⅡ

座長 : 谷貝 勇 (元気象大)

A201	藤原 ケイ (無所属)	「竜巻」発生時期と彗星位置の関係
A202	内山 常雄 (予報士会)	日本と世界の気温上昇の相違について
A203	水瀬 正雄 (長岡市)	日本における理論太陽輻射量と気温日別平滑平年値の解析
A204	谷貝 勇 (元気象大)	地球温暖化が影響する日本の冷夏と暑夏について (その 10) - アメダスの豪雨と温暖化の関係 -
A205	足立 幸穂 (理研計算科学)	関西地域の夏季降水を対象とした SCALE による将来変化予測 (その 3)
A206	釜堀 弘隆 (気象研)	東海地方の降水量観測データレスキュー

大会第2日 [5月17日(木)] 09:15~11:30 一般口頭発表

B 会場

降水システムⅡ

座長 : 吉住 蓉子 (九大院理)

- | | | |
|------|-----------------|--|
| B201 | 久芳 奈遠美 (東大大海研) | 暖かい雨に対する雲物理スキーム比較実験ーバルク法で使われる shape parameter の効果ー |
| B202 | 齋藤 泉 (名工大院工) | 雲乱流実験において形成される粒径分布に関する統計理論について |
| B203 | 田尻 拓也 (気象研) | ヨウ化銀粒子の雲核・氷晶核能 |
| B204 | 中井 専人 (防災科研・雪氷) | 降雪種ごとの Zh-R : 雲粒の少ない粒子についての観測的検討 |
| B205 | 橋本 明弘 (気象研) | バルク法雲物理モデリングにおける降水粒子特性の精緻化 |
| B206 | 吉住 蓉子 (九大院理) | 南岸低気圧に伴う降水雲のビデオゾンデ直接観測データを用いた WRF 雲物理スキームの評価 |
| B207 | 馬場 雄也 (JAMSTEC) | 異なる雲内部パラメタリゼーションを用いた降水の日変化応答の解析 |

大会第2日 [5月17日(木)] 09:15~11:30 一般口頭発表

C 会場

熱帯大気Ⅱ

座長 : 西 憲敬 (福岡大理)

C201	米山 邦夫 (JAMSTEC)	YMC-Sumatra 2017 集中観測概要
C202	横井 覚 (JAMSTEC)	YMC2017-Sumatra 集中観測期間中に見られた降水日変化
C203	伍 培明 (JAMSTEC)	MJO に伴う対流活発な位相通過時にスマトラ島で観測された地上の突風
C204	茂木 耕作 (JAMSTEC/DCOP)	Pre-YMC と YMC 期間中の MJO 通過に伴うスマトラ西方沖縁辺海の混合層変動
C205	萩野 慎也 (JAMSTEC)	熱帯沿岸脱水機 : 全球海陸水循環における沿岸降水の働き
C206	牛山 朋来 (土研 ICHARM)	2017年5月スリランカ豪雨の数値実験
C207	西 憲敬 (福岡大理)	積乱雲を含む大規模雲域の変形過程

大会第2日 [5月17日(木)] 09:15~11:30 一般口頭発表

D 会場

気象予報 I

座長 : 本田 匠 (理研計算科学)

D201	齊藤 和雄 (気象研)	アンサンブルデータ同化のための摂動手法 (4) NHM-LETKF
D202	露木 義 (気大)	PV inversion を用いたアンサンブルカルマンフィルタ (第2報)
D203	青梨 和正 (気象研)	Neighboring Ensemble に基づく変分同化法への降水の混合対数正規分布の導入
D204	山崎 哲 (JAMSTEC)	観測インパクト評価診断 (EFSO) ツールの「機動的」観測実験への利用
D205	前島 康光 (理研)	高密度地上観測データ同化実験における観測要素別のインパクト
D206	本田 匠 (理研計算科学)	降水予報改善へ向けた雲域赤外輝度温度観測同化の重要性
D207	吉村 僚一 (東北大工学部)	WRF-3DVAR データ同化および観測地点感度解析を用いた風力発電所における高精度風況予測

大会第3日 [5月18日(金)] 09:15~12:00 一般口頭発表

A 会場

気候システムⅢ

座長 : 小長谷 貴志 (東大AORI)

- | | | |
|------|------------------|--|
| A301 | 木野 佳音 (東大 AORI) | 軌道要素の違いによる高緯度域気候-植生フィードバック |
| A302 | 河合 佑太 (神大・理) | 海惑星気候の太陽定数増減実験: 海洋熱容量と海洋熱輸送の効果 |
| A303 | 小長谷 貴志 (東大 AORI) | 氷期から間氷期にかけて生じた急激な気候変化の再現 |
| A304 | 岩切 友希 (AORI) | 完新世の気候を対象とした ENSO-季節サイクル間相互作用の研究 |
| A305 | 納多 哲史 (京大院理) | 最終氷期最盛期実験における成層圏化学フィードバックによる寒冷化抑制 |
| A306 | 渡辺 泰士 (東大) | 更新世初期の 4 万年の氷期間氷期サイクルの形成メカニズムと更新世後期の 10 万年サイクルとの違い |
| A307 | 大島 長 (気象研) | 小惑星衝突により発生したすすによる気候変動 -恐竜などの大量絶滅の可能性- |
| A308 | 青木 輝夫 (岡山大) | グリーンランド氷床涵養域における気温上昇に伴う積雪粒径の増加と近赤外アルベド低下効果 |
| A309 | シェリフ多田野サム (AORI) | 大陸上の氷床拡大が海面冷却を通して大西洋子午面循環と気候に与える影響 |

大会第3日 [5月18日(金)] 09:15~12:00 一般口頭発表

B 会場

降水システムⅢ

座長 : 猪上 華子 (気象研)

- | | | |
|------|-------------------|---|
| B301 | 鈴木 博人 (JR 東日本防災研) | ドップラーレーダーを用いた突風に対する列車運転規制方法の開発 |
| B302 | 楠 研一 (気象研) | 鉄道のための突風探知研究 - これまでの流れと今後の展望 - |
| B303 | 猪上 華子 (気象研) | 2017年11月24日に庄内沖で発達した小スケールの渦を伴うメソ渦の特徴 |
| B304 | 岩井 宏徳 (NICT) | 沖縄本島で観測されたマイソサイクロンの構造 |
| B305 | 佐々 浩司 (高知大理) | 深層学習による漏斗雲の自動検知の試み |
| B306 | 岩下 久人 (明星電気) | 地上稠密気象観測による気温低下型突風予測手法検証 |
| B307 | 栃本 英伍 (東大大気海洋研) | 2015年9月1日に対馬海峡で突風を生じたメソβスケール渦のアンサンブル実験 |
| B308 | 益子 渉 (気象研) | 高解像度モデルを用いた Updraft Helicity の日本で発生する竜巻への適用 |

大会第3日 [5月18日(金)] 09:15~12:00 一般口頭発表

C 会場

熱帯大気Ⅲ

座長 : 末木 健太 (理研計算科学)

- | | | |
|------|------------------|--|
| C301 | 柳瀬 友朗 (京大院理) | 熱帯海洋上の積雲対流の組織化に関する数値実験:対流活動の日変化の考察 |
| C302 | 末木 健太 (理研計算科学) | 深い湿潤対流の統計的性質の数値的収束性 |
| C303 | 杉 正人 (気象研) | 雲解像モデルによる熱帯太平洋の深い積雲対流のシミュレーション-Gray zone の積雲対流スキームの開発に向けて- |
| C304 | 中澤 哲夫 (気象研) | 最近 100 年の対流圏界面高度変化 |
| C305 | 中野 満寿男 (JAMSTEC) | 北緯 25 度以北での台風発生について |
| C306 | 加瀬 紘熙 (横浜国大院) | Deep Learning を用いた台風強度予測 |
| C307 | 金田 幸恵 (名大 ISEE) | 擬似温暖化実験による台風に伴う北海道東部の大雨の将来変化予測 |
| C308 | 石山 尊浩 (東大 AORI) | 強 El Niño 年(1997/2015 年)の北太平洋の熱帯低気圧活動環境場の相違 |
| C309 | 宮本 佳明 (マイアミ大) | 270 メンバーのアンサンブル計算で得られた急発達開始前の熱帯低気圧の構造変化 |

大会第3日 [5月18日(金)] 09:15~12:00 一般口頭発表

D 会場

気象予報Ⅱ

座長：吉田 聡（京大防災研白浜）

- | | | |
|------|----------------|--|
| D301 | 本田 有機（気象庁数値予報） | 現業数値予報での観測データ利用の高度化:2017年成果報告 |
| D302 | 瀬古 弘（気象研） | 航空機からの SSR モード S ダウンリンクデータの同化実験(その3) |
| D303 | 岡本 幸三（気象研） | ひまわり 8号の赤外輝度温度同化：晴天域同化との比較 |
| D304 | 栗花 卓弥（筑波大） | 二重偏波パラメータに関する統計調査 |
| D305 | 門倉 真二（電中研） | 風力発電出力予測の高度化ーモニタリングデータ活用による精度向上ー |
| D306 | 吉田 聡（京大防災研白浜） | 2017年3月27日那須雪崩をもたらした低気圧の予測可能性 |
| D307 | 和田 章義（気象研） | 2016年台風第1号による南西諸島及び九州南部のシールド状降水域形成プロセス |
| D308 | 棚原 慎也（琉球大） | CNNを用いた台風の強度予測における感度解析 |

大会第4日 [5月19日(土)] 09:15~11:30 一般口頭発表

A 会場

気候システムIV

座長 : 澤田 洋平 (気象研)

- | | | |
|------|-----------------|---------------------------------|
| A401 | 堀田 陽香 (東大 AORI) | 衛星シミュレータを用いた気候モデル MIROC の雲場の評価 |
| A402 | 山本 孝祐 (AORI) | 気候シミュレーションにおける積雲対流パラメタリゼーションの役割 |
| A403 | 澤田 洋平 (気象研) | 衛星観測マイクロ波放射輝度を同化した陸域水文・生態系の再解析 |

環境気象

座長 : 仲吉 信人 (東京理科大)

- | | | |
|------|---------------|---|
| A404 | 藤部 文昭 (首都大) | 熱中症による救急搬送率の地域性と変動—死亡率との比較— |
| A405 | 仲吉 信人 (東京理科大) | 都市移動観測へ向けたグローブ風速放射センサの性能調査 |
| A406 | チン ビンパイ (気象研) | Distribution of aerosol mixing state revealed by transmission electronic microscopic observations in Japan and its relevance to cloud droplet nucleation properties |
| A407 | 梶野 瑞王 (気象研) | 放射性セシウムの沈着と拡散への感度:気象モデルとエアロゾル特性 |

大会第4日 [5月19日(土)] 09:15~11:30 一般口頭発表**B 会場****降水システムⅣ**

座長 : 佐藤 晋介 (NICT)

- | | | |
|------|----------------------|-------------------------------------|
| B401 | 足立 透 (気象研) | TC1703 に伴って突風被害をもたらした積乱雲のデュアルPAWR解析 |
| B402 | 諸田 雪江 (NICT/名大 ISEE) | 近畿地方で発生した孤立積乱雲のフェーズドアレイ気象レーダー観測 |
| B403 | 佐藤 晋介 (NICT) | フェーズドアレイ気象レーダーで観測された3次元降水データの時空間特性 |
| B404 | 岩崎 博之 (群馬大教育学) | 日本周辺における多重雷の雷撃時間間隔を決める要因について |

大会第4日 [5月19日(土)] 09:15~11:30 一般口頭発表

C 会場

観測手法 I

座長 : 清水 慎吾 (防災科研)

C401	足立 アホロ (気象研)	RASS 観測におけるパラメトリックスピーカーの利用
C402	六車 光貴 (RISH)	パラメトリックスピーカーを用いた低騒音型 RASS 用音源の開発
C403	清水 慎吾 (防災科研)	複数台レーダを用いた三次元風速場解析の手法間比較と統合化プログラムの提案
C404	鈴木 賢士 (山口大院)	Ka 帯レーダと MRR による二周波反射因子差の雲物理的特徴
C405	石元 裕史 (気象研)	レーダー反射特性解析のための融解雪片モデルの開発
C406	佐藤 英一 (気象研)	二重偏波レーダーを用いた曇天・雨天時の火山噴煙の観測について
C407	大平 貴裕 (気象工学)	パーシバルによる桜島降灰のリアルタイム監視

大会第4日 [5月19日(土)] 09:15~11:30 一般口頭発表

D 会場

気象予報Ⅲ

座長 : 堀田 大介 (気象研)

- | | | |
|------|------------------|--|
| D401 | 米原 仁 (気象庁数値予報) | 2017年5月に実施した気象庁全球モデル(GSM)の改良について |
| D402 | 中川 雅之 (気象研) | 気象庁全球モデルにおける下層雲の表現の改善 (第二報) |
| D403 | 計盛 正博 (気象庁数値予報) | マイクロ波輝度温度データを用いた気象庁全球数値予報モデルの評価—寒気吹き出し域の雲水表現について— |
| D404 | 榎本 剛 (京大防災研) | RBFを用いた浅水波モデルの標準実験による検証 |
| D405 | 堀田 大介 (気象研) | ネスト可能でマルチグリッド法の利用に適した全球スペクトルモデル用の格子系の提案 |
| D406 | レ デュック (JAMSTEC) | Application of diagonal ensemble transform matrices into ensemble forecast |
| D407 | 高谷 祐平 (気象研) | インドモンスーンオンセット期の季節内降水予測と旱魃インデックスの利用 |

大会第4日 [5月19日(土)] 13:30~17:15 一般口頭発表

B 会場

物質循環システム

座長 : 柴田 泰邦 (首都大)

B451	鶴田 治雄 (RESTEC)	福島第一原子力発電所近傍の SPM 測定局における事故直後の放射性セシウム時系列データの解析
B452	渡邊 明 (福島大・理工)	ナノ粒子の放射線強度の変動
B453	佐藤 陽祐 (名大工)	統一気象場と放出源を用いた福島第一原子力発電所起源の ^{137}Cs を対象としたモデル間比較プロジェクト
B454	河合 慶 (名大院環境)	ゴビ砂漠のライダーネットワークが捉えた寒冷前線システムによるダストの舞い上げとその空間構造
B455	源 祐輝 (名大院環境)	ひまわり 8 号 Dust RGB 画像を用いたゴビ砂漠ダストホットスポットの解析
B456	柴田 泰邦 (首都大)	3 波長 DIAL による境界層中の CO_2 濃度とエアロゾルおよび気温鉛直分布の同時観測
B457	梶野 瑞王 (気象研)	気象庁気象化学モデル NHM-Chem : 化学・物理・光学特性および領域収支の整合的予測
B458	大島 長 (気象研)	気象研究所地球システムモデルによる北極域におけるブラックカーボンの放射影響評価
B459	竹見 哲也 (京大防災研)	桜島からの火山灰輸送の季節性・地域性に関する統計解析

大会第4日 [5月19日(土)] 13:30~17:15 一般口頭発表

C 会場

観測手法Ⅱ

座長：古澤 文江（名大宇地研）

- | | | |
|------|--------------------|---|
| C451 | 鈴木 睦（宇宙研） | SMILES-2 バンド設定について |
| C452 | 清水 悠正（神戸大・海事） | WRF 計算用海面水温データセット MOSST と IHSST の比較 |
| C453 | 永尾 隆（JAXA/EORC） | GCOM-C/SGLI の全球観測模擬データを用いた晴雲識別アルゴリズムの試作 |
| C454 | 古澤 文江（名大宇地研） | 衛星観測データを用いた降水プロダクト間の比較 III |
| C455 | 山地 萌果（JAXA/EORC） | 衛星全球降水マップ GSMaP の日本域における検証 ～信頼度フラグの有効性～ |
| C456 | 宇塚 和夫（TOK） | メンテナンスフリーを実現した転倒ます型雨量計の開発 |
| C457 | 山本 哲（気象研） | 極細熱電対による気温観測における風速影響 |
| C458 | 渡邊 武志（CRIEPI） | 地表面日射量時系列データの特徴を表す時系列特徴量の選択手法 |
| C459 | 松井 倫弘（フランクリン・ジャパン） | LIDEN データを用いた JLDN の対地雷検知効率の評価 |

大会第4日 [5月19日(土)] 13:30~17:15 一般口頭発表

D 会場

中層大気

座長 : 野口 峻佑 (気象研)

- | | | |
|------|-------------------|--|
| D451 | 坂崎 貴俊 (ハワイ大 IPRC) | 熱帯海洋域における地上気温の太陰潮汐シグナルの検出 |
| D452 | 高麗 正史 (東大院理) | 大型大気レーダーとラジオゾンデに基づく南極自由大気中の乱流パラメータ推定 |
| D453 | 南原 優一 (東大院理) | PANSY レーダーで観測された極域対流圏・下部成層圏における重力波の間欠性 |
| D454 | 角 ゆかり (東大院理) | 成層圏突然昇温時の成層圏の気温構造と重力波特性 |
| D455 | 星 一平 (新潟大) | 北極海氷域変動に伴う Weak Polar Vortex event の特徴 |
| D456 | 松下 優樹 (東大院理) | 大気再解析データに基づく中層大気的年々変動と波強制の関係についての研究 |
| D457 | 向川 均 (京大・院理) | 冬季成層圏極渦に内在する予測障壁~2009・2010年の成層圏突然昇温の予測可能性比較~ |
| D458 | 野口 峻佑 (気象研) | 成層圏突然昇温予測への衛星観測のインパクト |
| D459 | 小新 大 (東大院理) | 全中性大気に対する最適なデータ同化システムの検討 |
| D460 | 廣岡 俊彦 (九大院理) | 2016年のQBO異常に伴う力学場と大気微量成分の変動(II) |
| D461 | 劉 光宇 (九大理院) | 南極域におけるオゾン変動と力学場の関係III |
| D462 | 直江 寛明 (気象研) | 衛星観測 Level2 オゾン全量の長期トレンド |

大会第1日〔5月16日(水)〕11:45~12:45 ポスター・セッション

- P101 関 隆則 (気象予報士会) 断熱圧縮による温室効果実験: 二酸化炭素と乾燥空気~早く冷えるのはどっち?~
- P102 長谷 健太郎 (京大防災研) 日本域における春季の降水特性
- P103 辻 宏樹 (東大大気海洋研) Atmospheric River と切離低気圧の相乗効果に伴う降水と前線に伴う降水の違い
- P104 南雲 信宏 (気象研) 凍雨および雨氷の JMA-NHM の再現性と環境場の特徴
-2016年1月29日の事例-
- P105 佐竹 晋輔 (日本エヌ・ユー・エス) 気象モデルとオンライン結合した水文モデル(WRF-Hydro)のわが国への適用
- P106 新堀 敏基 (気象研) 高時間分解能 GPV を入力した移流拡散モデルによる火山灰予測
- P107 瀬古 弘 (気象研) ひまわり 8 号高頻度大気追跡風と LETKF を用いて再現した平成 29 年 7 月の九州北部豪雨
- P108 熊本 真理子 (地磁気観測所) 地磁気観測所の大気電場と Severe Storm の関連について
-2017年6月16日・2014年4月4日・2012年5月6日の降雹事例と 10 分間降水量の関係から-
- P109 折笠 成宏 (気象研) UAE 上空の雲へのフレアシーディング実験
- P110 吉田 翔 (筑波大院生命環境) 短時間降水予測に対する Ka バンドレーダの適用性の検討
- P111 野口 峻佑 (気象研) 成層圏におけるブレッドベクトル
- P112 足立 アホロ (気象研) 二重偏波レーダーによる雨滴粒径分布の形状パラメータ推定の試み
- P113 初塚 大輔 (北大院地球環境) d4PDF における月降水量極値の再現性と将来変化の不確実性に関する検証
- P114 山菅 大 (首都大) 長時間変調パルスレーザを用いた風観測ライダーの研究開発
- P115 久慈 誠 (奈良女子大) 船舶搭載型全天カメラ観測データ解析による雲量の推定
- P116 竈本 倫平 (山口大農) 降雪粒子地上直接観測による GPM/DPR 降水タイプ分類アルゴリズムの地上検証 (その2)
- P117 関根 広貴 (東理大) 南関東における大気エアロゾルの吸湿特性に関する研究
- P118 仲吉 信人 (東京理科大) 熱環境が人体生理量・心理量に与える影響把握と関係性調査
- P119 守永 武史 (MRI) 境界層乱流におけるスカラー濃度変動の対数則
- P120 本橋 淳也 (法政大) 十勝平野下層寒気維持の事例解析
- P121 柴田 清孝 (KUT) ウィンドプロファイラーによる境界層と対流圏中層の風の日変化とその季節依存
- P122 柳瀬 亘 (気象研) 台風の温帯低気圧化後の再発達に関する総観場のコンボジット解析
- P123 松本 昭大 (法政大) 北半球におけるブロッキング現象の季節別長期変動
- P124 伊藤 一輝 (筑波大学) 数十年スケールのプラネタリーアルベド変動についての研究
- P125 小川 陽平 (防衛大) 都市域における CO₂ フラックスの長期観測
- P126 増田 涼佑 (東北大院理) 酸素吸収帯を利用した地上観測による雲物理量推定手法の開発
- P127 北川 裕人 (気象大) 2 流近似を基本にした大気放射の 2 次元計算
- P128 高橋 直也 (東北大院理) 北太平洋における下層雲と海面水温前線の季節変化と共変動性
- P129 塩竈 秀夫 (環境研) 気候変動の検出と要因分析に関するモデル相互比較計画 (DAMIP/CMIP6)

大会第2日〔5月17日(木)〕11:30~12:30 ポスター・セッション

- P201 平田 章子 (岡山大) 冬季の地上降水形態に与える気温と相対湿度の影響
- P202 中山 尋斗 (東京学芸大) 2018年1月22日の大雪に先行する気温の低下について
- P203 安齊 理沙 (筑波大院生命環境) 冬季多降水をもたらす閉塞過程を伴う温帯低気圧
- P204 北島 尚子 (気象大学校) 台風1721号の進路左側における西日本の強風と強雨に関連したメソ α スケール構造
- P205 池田 翔 (東北大院・理) 農作物病害予測情報の支援に向けた週間葉面湿度予報
- P206 住友 雅司 (気象大) PV inversion を用いたアンサンブルデータ同化の研究
- P207 金子 凌 (水理研) 境界条件改良による平成29年7月九州北部豪雨の再現実験
- P208 高橋 暢宏 (ISEE) タイムラプスカメラとXRAINによる対流性降雨の解析
- P209 山下 克也 (防災科研・雪氷) 長岡市での南岸低気圧通過時の降雪特性調査: 2018年1月の事例
- P210 篠田 太郎 (名大宇地研) 北陸地方における走査型Ka帯偏波レーダを用いた降雪雲の観測と固体降水粒子判別への適用可能性
- P211 中島 大岳 (古野電気) 小型Xバンド二重偏波ドップラ気象レーダーのドップラ風速精度評価
- P212 川村 誠治 (NICT) 地デジ放送波を用いた水蒸気量推定手法の研究開発
—首都圏展開の現状と今後の展望—
- P213 長谷川 聖矢 (首都大都市環境) 日本近海におけるマイクロ波散乱計MetOp-B/ASCATの精度検証
- P214 小西 啓之 (大教大) GPM搭載DPRと地上降雪量の比較検証観測
- P215 佐藤 丈徳 (東理大) 2016-2017年の東京スカイツリー観測における新粒子生成
- P216 小澤 史周 (理科大) 五日間の温熱生理連続測定によるバイオリズムの四季変化
- P217 瀬戸 芳一 (首都大都市環境) 地上気象観測値から求めた発散量の精度および鉛直流との関係
- P218 北野 慈和 (電中研) 観測が疎な高標高山岳域において領域気象モデルにて形成される高風速域の発生機構
- P219 門前 由喜子 (学芸大) 海面水温が日本海を通過する爆弾低気圧に与える影響
- P220 金崎 拓郎 (横浜国大) 機械学習を用いた台風識別器の開発と精度検証
- P221 ブリクリル ポール (UNB) 太陽風-磁気圏-電離圏-大気圏結合の状況における温帯低気圧および熱帯低気圧の急発達
- P222 張 代洲 (熊本県立大・環境共生) Bacterial Aerosol Concentration in Rainwater of Cyclone, Meiyu and Typhoon: Observation at Kumamoto
- P223 村山 昌平 (産総研) スパールバル諸島ニーオルスン基地における大気中二酸化炭素, メタン, 一酸化炭素濃度の変動
- P224 瀬口 貴文 (防衛大) 積乱雲の雲頂から飛び上がる巻雲: Jumping Cirrus の観測と定量的解析による特徴
- P225 松枝 秀和 (気象研) 大気中ラドン観測によるデータ選別手法の改良
- P226 村上 茂教 (気象大) 全球線形傾圧モデルの作成と気候場解析への応用
- P227 釜江 陽一 (筑波大生命環境) 東アジア atmospheric river に伴う豪雨の気候学的特徴
- P228 田中 実 (無所属) 世界の気温の日較差の大きい地域の分布とその原因の調査
- P229 伊藤 享洋 (気象庁海洋気象) 北西太平洋域の波候と波高の長期変化傾向

大会第3日〔5月18日(金)〕12:00~13:00 ポスター・セッション

- P301 中前 久美 (KUT) 極端豪雨の統計的再現期間の不確実性；高知県の場合
- P302 鈴木 健斗 (東北大院理) 2016年1月18日の南岸低気圧による仙台平野の降雪事例解析
- P303 澤田 壮弘 (筑波大) 降水衛星観測で捉えた冬季温帯低気圧に伴う降水システムの3次元構造
- P304 入江 健太 (学芸大) 2016年台風10号と上層寒冷低気圧の間にできた降水帯の解析
- P305 大竹 秀明 (産総研) 気象庁数値予報モデルの日射量予測の再検証
- P306 大塚 道子 (気象研) ひまわり8号最適雲解析プロダクトの同化実験
- P307 下瀬 健一 (防災科研) 3DVAR+IAUを用いた2015年9月6日に首都圏で発生した竜巻の風速場解析
- P308 山田 芳則 (気象研) 粒子の成長・変換をより自然に表現する氷相バルク微物理モデルの試作(2)
- P309 村崎 あつみ (名大宇地研) Ka帯レーダーで検出されなかった層積雲の粒径分布の特徴
- P310 今井 隆翔 (ISEE) フェーズドアレイ気象レーダによる沖縄海上竜巻の解析
- P311 西井 章 (高知大院理) 高知大学MPレーダーによる雨量評価の改善
- P312 高野 眞一 (理科大) 広角カメラを用いたバルーン軌道速度測定手法の改良
- P313 星野 俊介 (高層台) GNSS視線遅延量を用いた顕著現象の事例解析
- P314 高野 雄紀 (東大気海洋研) 雲に着目した気象解説に適するひまわりRGB合成画像の考案
- P315 菊池 悠馬 (東京理科大) クールスポットの暑熱緩和効果に関する実験的検討
- P316 河野 恭佑 (千葉工大院) 千葉県谷津干潟周辺における熱環境評価
- P317 柴田 清孝 (KUT) 四国南西部の夏季最高気温出現時の気候特性
- P318 近藤 文義 (海保大) 大気乱流による気圧変動の直接測定
- P319 辻野 智紀 (名大宇地研) 数値モデルで再現された第二室戸台風上陸時の衰退プロセス
- P320 松下 侑未 (北大院環境科学) d4PDF将来4℃上昇実験の各SSTパターンに対する台風通過頻度の将来変化に関する要因解析
- P321 栃本 英伍 (東大気海洋研) 北西太平洋で発達する温帯低気圧構造の統計的特徴—北西大西洋で発達する温帯低気圧との比較—
- P322 杉田 考史 (NIES) 西シベリア上空100hPaの成層圏メタンの季節変動
- P323 財前 祐二 (気象研) 日本からUAE上空の中部自由対流圏で観測されたエアロゾルの特徴
- P324 武 靖 (乾地研) Contributions of Climate and Human Factors to Aeolian Desertification in Xilingol Grassland
- P325 村田 昭彦 (気象研) 日本の極端降水量の将来変化に対する力学及び熱力学過程の影響
- P326 山田 洋平 (JAMSTEC) NICAMを用いた熱帯低気圧の発生分布の再現性向上に向けた感度実験
- P327 近藤 慧史 (東京理科大学) 気象モデルWRFを用いた高知県四万十市江川崎における日本最高気温のメカニズム調査
- P328 野坂 真也 (気象研) オフラインSiBを用いた積雪の再現性とバイアス補正

大会第4日〔5月19日(土)〕11:30~12:30 ポスター・セッション

- | | | |
|------|-----------------------|---|
| P401 | 松井 孝夫 (群馬大教育) | 小型落雷実験装置の開発と中学校理科での教育実践 |
| P402 | 大泉 伝 (JAMSTEC) | 2014年8月広島での豪雨の再現実験 |
| P403 | 澤田 洋平 (気象研) | 積乱雲スケールの予測可能性改善に向けた
ひまわり8号雲域輝度温度同化 |
| P404 | 木下 直樹 (九大・理) | 理想降水セルにおける Hallett-Mossop process の効果に関する数値
実験 |
| P405 | 南雲 信宏 (気象研) | 二重偏波レーダーで観測された竜巻・非竜巻事例のフックエコーの
比較 |
| P406 | 中井 専人 (防災科研・雪氷) | 光学式ディストロメーターの特性と全粒子ロギングについて |
| P407 | 末澤 卓 (首都大院) | Convolution Neural Network を用いた短時間降水予測手法の開発 |
| P408 | 岩本 尚大 (京大生存研) | コヒーレント・ドップラー・ライダーと高解像度都市モデルを用いた
Convective Initiation の検討 |
| P409 | 中村 祐輔 (立正大・院) | ドップラーライダーの移動観測による大気境界層高度および鉛直
風の水平分布把握の試み |
| P410 | 松山 裕矢 (九大理) | プラネタリー波の成層圏における反射について |
| P411 | 張 代洲 (熊本県立大・環境
共生) | On Trans-boundary Airborne Particulate Matters over East Asia:
Observations in 2014-2017 |
| P412 | 伊藤 昭彦 (環境研) | 北東ユーラシアにおける陸域メタン収支: 湿原モデル計算と排出イ
ンベントリ解析 |
| P413 | 小寺 沙也加 (北大・環境科
学院) | 極域オゾンと中高緯度渦熱フラックスの線形関係に関する考察 |
| P414 | 渡邊 俊一 (JMBSC) | 地域気候モデルを用いた台風及び非台風降水の将来変化予測
(その3) - 台風降水の将来変化 - |
| P415 | 庭野 匡思 (気象研) | 積雪内部における鉛直高解像度不純物移動計算の試み |

講演者索引

< A >

Adachi Ahoro (足立 アホロ) C401
 Adachi Ahoro (足立 アホロ) P112
 Adachi Sachio (足立 幸穂) A205
 Adachi Toru (足立 透) B401
 Aizawa Takuro (相澤 拓郎) A102
 Anzai Rise (安齊 理沙) P203
 Aoki Teruo (青木 輝夫) A308
 Aonashi Kazumasa (青梨 和正) D203
 Araki Kentaro (荒木 健太郎) B101

< B >

Baba Yuya (馬場 雄也) B207

< C >

Ching PingPui (チン ピンブイ) A406

< D >

Doi Takeshi (土井 威志) A156

< E >

Enomoto Takeshi (榎本 剛) D404

< F >

Fudeyasu Hironori (筆保 弘徳) C160
 Fujibe Fumiaki (藤部 文昭) A404
 Fujikawa Masahiro (藤川 雅大) C106
 Fujita Tadashi (藤田 匡) B158
 Fujiwara Kei (藤原 ケイ) A201
 Fujiwara Keita (藤原 圭太) C159
 Furuzawa Fumie (古澤 文江) C454

< H >

Harada Yayoi (原田 やよい) A158
 Hase Kentaro (長谷 健太郎) P102
 Hasegawa Akira (長谷川 聡) A152
 Hasegawa Seiya (長谷川 聖矢) P213
 Hashimoto Akihiro (橋本 明弘) B205
 Hatsuzuka Daisuke (初塚 大輔) P113
 Hioki Tomohito (日置 智仁) C161
 Hirata Akiko (平田 章子) P201
 Hirata Hidetaka (平田 英隆) A106
 Hirooka Toshihiko (廣岡 俊彦) D460
 Honda Takumi (本田 匠) D206
 Honda Yuki (本田 有機) D301
 Hori Masatake (堀 正岳) A157
 Hoshi Kazuhira (星 一平) D455

Hoshino Shunsuke (星野 俊介) P313
 Hotta Daisuke (堀田 大介) D405
 Hotta Haruka (堀田 陽香) A401

< I >

Iizuka Satoshi (飯塚 聡) B161
 Ikeda Shou (池田 翔) P205
 Imai Ryusho (今井 隆翔) P310
 Imamura Atsushi (今村 淳志) B107
 Inoue Hanako (猪上 華子) B303
 Irie Kenta (入江 健太) P304
 Ishihara Masahito (石原 正仁) C155
 Ishimoto Hiroshi (石元 裕史) C405
 Ishiwatari Masaki (石渡 正樹) D107
 Ishiyama Takahiro (石山 尊浩) C308
 Itano Toshihisa (板野 稔久) D103
 Ito Akihiko (伊藤 昭彦) P412
 Ito Junshi (伊藤 純至) B159
 Ito Kazuki (伊藤 一輝) P124
 Ito Kosuke (伊藤 耕介) C162
 Ito Takahiro (伊藤 享洋) P229
 Iwai Hironori (岩井 宏徳) B304
 Iwakiri Tomoki (岩切 友希) A304
 Iwamoto Naohiro (岩本 尚大) P408
 Iwasaki Hiroyuki (岩崎 博之) B404
 Iwasaki Suginori (岩崎 杉紀) A101
 Iwashita Hisato (岩下 久人) B306

< K >

Kadokura Shinji (門倉 真二) D305
 Kajino Mizuo (梶野 瑞王) A407
 Kajino Mizuo (梶野 瑞王) B457
 Kamae Youichi (釜江 陽一) P227
 Kamahori Hirotaka (釜堀 弘隆) A206
 Kamamoto Rimpei (竈本 倫平) P116
 Kanada Sachie (金田 幸恵) C307
 Kanasaki Takuro (金崎 拓郎) P220
 Kaneko Ryo (金子 凌) P207
 Kase Koki (加瀬 紘熙) C306
 Kato Ryohei (加藤 亮平) B154
 Kawai Kei (河合 慶) B454
 Kawai Yuta (河合 佑太) A302
 Kawamura Seiji (川村 誠治) P212
 Kawano Kyosuke (河野 恭佑) P316
 Kawano Tetsuya (川野 哲也) B152
 Kawashima Masayuki (川島 正行) B104
 Kazumori Masahiro (計盛 正博) D403

Kikuchi Yuma (菊池 悠馬) P315
 Kino Kanon (木野 佳音) A301
 Kishita Naoki (木下 直樹) P404
 Kitabatake Naoko (北畠 尚子) P204
 Kitagawa Hiroto (北川 裕人) P127
 Kitamoto Asanobu (北本 朝展) C151
 Kitamura Yuji (北村 祐二) D154
 Kitano Yoshikazu (北野 慈和) P218
 Kiyomoto Shota (清本 翔太) D161
 Kobayashi Chiaki (小林 ちあき) A160
 Koderia Kunihiko (小寺 邦彦) A103
 Koderia Sayaka (小寺 沙也加) P413
 Kohma Masashi (高麗 正史) D452
 Kondo Fumiyoshi (近藤 文義) P318
 Kondo Satoshi (近藤 慧史) P327
 Konishi Hiroyuki (小西 啓之) P214
 Koshin Dai (小新 大) D459
 Kuba Naomi (久芳 奈遠美) B201
 Kuji Makoto (久慈 誠) P115
 Kumamoto Mariko (熊本 真理子) P108
 Kurihana Takuya (栗花 卓弥) D304
 Kuroda Yuhji (黒田 友二) A159
 Kusunoki Kenichi (楠 研一) B302
 Kusunoki Shoji (楠 昌司) A161

< L >

Le Duc (レ デュック) D406
 Liu Guangyu (劉 光宇) D461

< M >

Maejima Yasumitsu (前島 康光) D205
 Mashiko Wataru (益子 渉) B308
 Masuda Ryosuke (増田 涼佑) P126
 Matsueda Hidekazu (松枝 秀和) P225
 Matsui Michihiro (松井 倫弘) C459
 Matsui Takao (松井 孝夫) P401
 Matsumoto Akihiro (松本 昭大) P123
 Matsushita Yuki (松下 優樹) D456
 Matsushita Yumi (松下 侑未) P320
 Matsuyama Yuuya (松山 裕矢) P410
 Min KyeongSeok (閔 庚夕) B106
 Minamihara Yuichi (南原 優一) D453
 Minamoto Yuki (源 祐輝) B455
 Miyamoto Yoshiaki (宮本 佳明) C309
 Mizuse Masao (水瀬 正雄) A203
 Mommae Yukiko (門前 由喜子) P219
 Momoi Masahiro (桃井 裕広) C102

Morinaga Takeshi (守永 武史)	P119	Onuki Yohei (大貫 陽平)	D101	Shinoda Yuta (篠田 裕太)	B103
Moroda Yukie (諸田 雪江)	B402	Oohira Takahiro (大平 貴裕)	C407	Shiogama Hideo (塩竈 秀夫)	P129
Moteki Qoosaku (茂木 耕作)	C204	Orikasa Narihito (折笠 成宏)	P109	Shoji Yoshinori (小司 植教)	B164
Motohashi Junya (本橋 淳也)	P120	Oshima Naga (大島 長)	A307	Sueki Kenta (末木 健太)	C302
Muguruma Koki (六車 光貴)	C402	Oshima Naga (大島 長)	B458	Suezawa Taku (末澤 卓)	P407
Mukougawa Hitoshi (向川 均)	D457	Otsuka Michiko (大塚 道子)	P306	Sugawara Hirofumi (菅原 広史)	D159
Murahashi Kuriki (村橋 究理基)	D151	Oyama Ryo (小山 亮)	C156	Sugi Masato (杉 正人)	C303
Murakami Shigenori (村上 茂教)	P226	Ozawa Fumichika (小澤 史周)	P216	Sugita Takafumi (杉田 考史)	P322
Murasaki Atsumi (村崎 あつみ)	P309	< P >		Sumi Yukari (角 ゆかり)	D454
Murata Akihiko (村田 昭彦)	P325	Prikryl Paul (ブリクリル ポール)	P221	Sumitomo Masashi (住友 雅司)	P206
Murayama Shohei (村山 昌平)	P223	< S >		Suzuki Hiroto (鈴木 博人)	B301
< N >		Saito Izumi (齋藤 泉)	B202	Suzuki Kenji (鈴木 賢士)	C404
Nagai Tomohiro (永井 智広)	B162	Saito Kazuo (斉藤 和雄)	D201	Suzuki Kento (鈴木 健斗)	P302
Nagao Takashi (永尾 隆)	C453	Sakazaki Takatoshi (坂崎 貴俊)	D451	Suzuki Makoto (鈴木 睦)	C451
Nagumo Nobuhiro (南雲 信宏)	P104	Sassa Koji (佐々 浩司)	B305	< T >	
Nagumo Nobuhiro (南雲 信宏)	P405	Satake Shinsuke (佐竹 晋輔)	P105	Tajiri Takuya (田尻 拓也)	B203
Nakagawa Masayuki (中川 雅之)	D402	Sato Eiichi (佐藤 英一)	C406	Takahashi Kazuyuki (高橋 一之)	D158
Nakai Sento (中井 専入)	B204	Sato Naoki (佐藤 尚毅)	A107	Takahashi Naoya (高橋 直也)	P128
Nakai Sento (中井 専入)	P406	Sato Takenori (佐藤 丈徳)	P215	Takahashi Nobuhiro (高橋 暢宏)	P208
Nakajima Hiroto (中島 大岳)	P211	Sato Tomonori (佐藤 友徳)	A104	Takahashi Yoshiyuki (高橋 芳幸)	C107
Nakajima Kensuke (中島 健介)	D104	Sato Yousuke (佐藤 陽祐)	B453	Takano Masakazu (高野 眞一)	P312
Nakamae Kumi (中前 久美)	P301	Sato Yousuke (佐藤 陽祐)	D152	Takano Yuki (高野 雄紀)	P314
Nakamura Yusuke (中村 祐輔)	D157	Satoh Reona (佐藤 令於奈)	A105	Takasaki Yoshinori (高咲 良規)	D156
Nakamura Yusuke (中村 祐輔)	P409	Satoh Shinsuke (佐藤 晋介)	B403	Takaya Yuhei (高谷 祐平)	D407
Nakano Masuo (中野 満寿男)	C305	Sawada Morihito (澤田 壮弘)	P303	Takemi Tetsuya (竹見 哲也)	B153
Nakayama Hiroto (中山 尋斗)	P202	Sawada Yohei (澤田 洋平)	A403	Takemi Tetsuya (竹見 哲也)	B459
Nakayoshi Makoto (仲吉 信人)	A405	Sawada Yohei (澤田 洋平)	P403	Tanahara Shinya (棚原 慎也)	D308
Nakayoshi Makoto (仲吉 信人)	P118	Sayama Takahiro (佐山 敬洋)	B155	Tanaka Minoru (田中 実)	P228
Nakazawa Tetsuo (中澤 哲夫)	C304	Seguchi Takafumi (瀬口 貴文)	P224	Tochimoto Eigo (栃本 英伍)	B307
Naoe Hiroaki (直江 寛明)	D462	Seki Takanori (関 隆則)	P101	Tochimoto Eigo (栃本 英伍)	P321
Nayak Sridhara (ナヤク スリダラ)	C158	Sekiguchi Miho (関口 美保)	C105	Toda Masaki (戸田 賢希)	A153
Nishi Noriyuki (西 憲敬)	C207	Sekine Hiroki (関根 広貴)	P117	Tsuboki Kazuhisa (坪木 和久)	C152
Nishii Akira (西井 章)	P311	Sekine Yudai (関根 祐大)	A155	Tsuguti Hiroshige (津口 裕茂)	B151
Niwano Masashi (庭野 匡思)	P415	Seko Hiromu (瀬古 弘)	D302	Tsuji Hiroki (辻 宏樹)	P103
Noda Akira (野田 彰)	D102	Seko Hiromu (瀬古 弘)	P107	Tsujino Satoki (辻野 智紀)	C154
Noda Satoshi (納多 哲史)	A305	Seto Yoshihito (瀬戸 芳一)	P217	Tsujino Satoki (辻野 智紀)	P319
Noguchi Shunsuke (野口 峻佑)	D458	Shakti PC (シャクティ ピーシー)	B156	Tsuruta Haruo (鶴田 治雄)	B451
Noguchi Shunsuke (野口 峻佑)	P111	SherriffTadano Sam (シェリフ多田野サム)	A309	Tsuyuki Tadashi (露木 義)	D202
Nosaka Masaya (野坂 真也)	P328	Shibata Kiyotaka (柴田 清孝)	P121	< U >	
< O >		Shibata Kiyotaka (柴田 清孝)	P317	Uchiyama Akihiro (内山 明博)	C103
Obase Takashi (小長谷 貴志)	A303	Shibata Yasukuni (柴田 泰邦)	B456	Uchiyama Akihiro (内山 明博)	C104
Ogawa Yohei (小川 陽平)	P125	Shimada Udai (嶋田 宇大)	C157	Uchiyama Tsuneco (内山 常雄)	A202
Ogino Shinya (荻野 慎也)	C205	Shimbori Toshiki (新堀 敏基)	P106	Ushiyama Tomoki (牛山 朋来)	C206
Ohkawara Nozomu (大河原 望)	C101	Shimizu Shingo (清水 慎吾)	C403	Uzuka Kazuo (宇塚 和夫)	C456
Ohtake Hideaki (大竹 秀明)	P305	Shimizu Yusei (清水 悠正)	C452	< W >	
Oizumi Tsutao (大泉 伝)	P402	Shimose Kenichi (下瀬 健一)	P307	Wada Akiyoshi (和田 章義)	D307
Okamoto Kozo (岡本 幸三)	D303	Shinoda Taro (篠田 太郎)	P210		

Wada Kouichirou (和田 幸一郎)	B157
Wakazuki Yasuraka (若月 泰孝)	B160
Watanabe Akira (渡邊 明)	B452
Watanabe Shunichi (渡邊 俊一)	B102
Watanabe Shunichi (渡邊 俊一)	P414
Watanabe Takeshi (渡邊 武志)	C458
Watanabe Yasuto (渡辺 泰士)	A306
Wu Jing (武 靖)	P324
Wu Peiming (伍 培明)	C203

< Y >

Yagai Isamu (谷貝 勇)	A204
Yamada Hiroyuki (山田 広幸)	C153
Yamada Yoshinori (山田 芳則)	P308
Yamaguchi Munehiko (山口 宗彦)	C163
Yamaji Moeka (山地 萌果)	C455
Yamamoto Akira (山本 哲)	C457
Yamamoto Kosuke (山本 孝祐)	A402
Yamamoto Yuhei (山本 雄平)	D160
Yamano Mio (山野 未央)	D106
Yamashita Katsuya (山下 克也)	P209
Yamasuge Hiroshi (山菅 大)	P114
Yamazaki Akira (山崎 哲)	D204
Yanase Tomoro (柳瀬 友朗)	C301
Yanase Wataru (柳瀬 亘)	P122
Yohei Yamada (山田 洋平)	P326
Yokoi Satoru (横井 覚)	C202
Yokota Sho (横田 祥)	B105
Yokoyama Chie (横山 千恵)	A154
Yonehara Hitoshi (米原 仁)	D401
Yoneyama Kunio (米山 邦夫)	C201
Yoshida Akira (吉田 聡)	D306
Yoshida Satoru (吉田 智)	B163
Yoshida Sho (吉田 翔)	P110
Yoshida Toshiya (吉田 敏哉)	D153
Yoshimori Masakazu (吉森 正和)	A151
Yoshimura Ryoichi (吉村 僚一)	D207
Yoshizaki Masanori (吉崎 正憲)	D105
Yoshizaki Masanori (吉崎 正憲)	D155
Yoshizumi Youko (吉住 蓉子)	B206

< Z >

Zaizen Yuji (財前 祐二)	P323
Zhang Daizhou (張 代洲)	P222
Zhang Daizhou (張 代洲)	P411